

平成 24(2012)年度

事業報告書

(平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)

学校法人 武蔵野美術大学

目 次

I. 学校法人の概要

1. 建学の精神・教育理念	P 2
2. 法人及び設置学校の沿革	P 2
3. 設置する学校・学部・学科等	P 3
4. 学外施設	P 3
5. 入学者数・収容定員・学生数・定員充足率	P 4
6. 卒業生数・就職希望者数・進学者数・就職者数	P 5
7. 学生納付金に関する情報	P 6
8. 当該学校の所在地	P 11
9. 役員及び教職員に関する情報	P 12

II. 事業の概要

1. 平成 24 年度重点課題	P13
2. 重点課題に基づく事業計画とその進捗状況	P13
3. その他の事業実績	P15

III. 財務の概要

1. 経年比較	P20
2. 主な財務比率比較	P22

I. 学校法人の概要

1. 建学の精神・教育理念

武蔵野美術大学は、1929年の創立当初から幅広い教養を備え、人格的にも優れた美術・デザインを中心とする造形各分野の専門家養成という教育理念をもち続けてきました。

それは、総合性と専門性の融合に深く留意し、「真に人間的自由に達するような美術教育」「教養を有する美術家養成」を掲げた建学の精神の堅持でもあります。

2. 法人及び設置学校の沿革

昭和 4(1929)年	帝国美術学校開校 (北多摩郡武蔵野町吉祥寺)
昭和 22(1947)年	造型美術学園と校名変更
昭和 23(1948)年	武蔵野美術学校と校名変更
昭和 32(1957)年	学校法人武蔵野美術学校認可 武蔵野美術短期大学設置
昭和 34(1959)年	短期大学通信教育部開設
昭和 36(1961)年	鷹の台校(現鷹の台キャンパス)開設
昭和 37(1962)年	学校法人武蔵野美術大学に改称 武蔵野美術大学設置、造形学部開設
昭和 44(1969)年	鷹の台キャンパスに全学統合 武蔵野美術学園開設
昭和 48(1973)年	大学院造形研究科(修士課程)を開設
昭和 63(1988)年	武蔵野美術短期大学を武蔵野美術大学短期大学部に名称変更
平成 14(2002)年	造形学部通信教育課程開設
平成 15(2003)年	武蔵野美術大学短期大学部廃止
平成 16(2004)年	大学院造形研究科に博士後期課程設置 新宿サテライト開設

3. 設置する学校・学部・学科等

理事長 天坊 昭彦

■武蔵野美術大学

学長 甲田 洋二

大学院	造形研究科	博士前期課程（修士課程）	美術専攻
			デザイン専攻
		博士後期課程	造形芸術専攻

造形学部	日本画学科	
	油絵学科	油絵専攻
		版画専攻
	彫刻学科	
	視覚伝達デザイン学科	
	工芸工業デザイン学科	
	空間演出デザイン学科	
	建築学科	
	基礎デザイン学科	
	映像学科	
	芸術文化学科	
デザイン情報学科		

造形学部 通信教育課程	油絵学科
	工芸工業デザイン学科
	芸術文化学科
	デザイン情報学科

■武蔵野美術学園

学園長 丸亀 敏邦

武蔵野美術学園	造形芸術科
	メディア表現科

4. 学外施設

- ・ gallery αM（東京都千代田区）
- ・ 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ（東京都港区）
- ・ 奈良寮（奈良県奈良市）
- ・ 清里山荘（山梨県北杜市）
- ・ 五箇山「無名舎」（富山県南砺市）
- ・ パリ国際芸術都市アトリエ（フランス）

5. 入学者数・収容定員・学生数 (2012年5月1日現在)

■武蔵野美術大学

【大学院 造形研究科】

専攻	入学者数	収容定員	学生数	収容定員充足率*
博士前期課程 美術専攻	59	56	125	2.23
博士前期課程 デザイン専攻	52	56	108	1.92
小計	111	112	233	2.08
博士後期課程 造形芸術専攻	4	18	14	0.77
大学院 総数	115	130	247	1.9

【造形学部 通学課程】

学科	入学者数	収容定員	学生数	収容定員充足率*
日本画学科	41	160	166	1.03
油絵学科	148	584	623	1.06
彫刻学科	35	132	142	1.07
視覚伝達デザイン学科	106	422	453	1.07
工芸工業デザイン学科	137	556	582	1.04
空間演出デザイン学科	125	500	503	1.00
建築学科	84	330	352	1.06
基礎デザイン学科	76	302	321	1.06
映像学科	87	350	381	1.08
芸術文化学科	86	326	344	1.05
デザイン情報学科	104	400	430	1.07
小計	1,029	4,062	4,297	1.05

【造形学部 通信教育課程】

学科	1年次生数	収容定員	学生数	収容定員充足率*
油絵学科	117	980	1,372	1.40
工芸工業デザイン学科	51	735	459	0.62
芸術文化学科	25	490	533	1.08
デザイン情報学科	56	735	593	0.80
小計	249	2,940	2,957	1.00
造形学部 合計	1,278	7,002	7,254	1.03

武蔵野美術大学 総数	1,393	7,132	7,501	1.05
-------------------	-------	-------	-------	------

*収容定員充足率・・・学生数÷収容定員

■武蔵野美術学園

科	収容定員	学生数
造形芸術科	210	88
メディア表現科	190	37
合 計	400	125

6. 卒業生数・就職希望者数・進学者数・就職者数 (2013年5月1日現在)

■武蔵野美術大学

【大学院 造形研究科】

専 攻	卒業生数	就職希望者数	進学者数	就職者数
博士前期課程 美術専攻	62	21	1	18
博士前期課程 デザイン専攻	46	21	2	19
小 計	108	42	3	37
博士後期課程 造形芸術専攻	6	0	0	0
大学院 総数	114	42	3	37

【造形学部】

学 科	卒業生数	就職希望者数	進学者数	就職者数
日本画学科	40	16	9	15
油絵学科	156	42	38	34
彫刻学科	36	12	10	11
視覚伝達デザイン学科	118	81	3	74
工芸工業デザイン学科	146	85	15	76
空間演出デザイン学科	120	71	10	57
建築学科	87	33	18	29
基礎デザイン学科	80	46	5	39
映像学科	95	37	9	31
芸術文化学科	73	42	4	34
デザイン情報学科	96	68	5	61
小 計	1,047	533	126	461

武蔵野美術大学 総数	1,161	575	129	498
------------	-------	-----	-----	-----

7. 学生納付金に関する情報 (2012 年度)

1. 学費などについて

【大学院 造形研究科 博士後期課程】

	新入生	在学生
入学金	180,000	
授業料	1,185,000	1,185,000
実習費	-	-
維持費	30,000	30,000
施設費	300,000	300,000
合計	1,695,000	1,515,000

注)1 入学金については、通常の金額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

注)2 実習費は徴収しない。

【大学院 造形研究科 修士課程】

	新入生	在学生
入学金	180,000	—
授業料	1,185,000	1,185,000
実習費		
日本画	33,000	33,000
油・版画	52,500	52,500
彫刻・映像・写真・デ情	65,500	65,500
視デ	39,500	39,500
工デ	57,500	57,500
造美・空デ・建築・基デ・芸文	29,500	29,500
維持費	30,000	30,000
施設費	300,000	300,000
合計		
日本画	1,728,000	1,548,000
油・版画	1,747,500	1,567,500
彫刻・映像・写真・デ情	1,760,500	1,580,500
視デ	1,734,500	1,554,500
工デ	1,752,500	1,572,500
造美・空デ・建築・基デ・芸文	1,724,500	1,544,500

注) 入学金については、通常の金額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

【造形学部】

①入学金及び授業料等

		新入生・編入生	在学生
入学金		360,000	—
授業料		1,185,000	1,185,000
実習費	日本画	33,000	33,000
	油・版画	52,500	52,500
	彫刻・映像・デ情	65,500	65,500
	視デ	39,500	39,500
	工デ	57,500	57,500
	空デ・建築・基デ・芸文	29,500	29,500
維持費		30,000	30,000
施設費		300,000	300,000
合計	日本画	1,908,000	1,548,000
	油・版画	1,927,500	1,567,500
	彫刻・映像・デ情	1,940,500	1,580,500
	視デ	1,914,500	1,554,500
	工デ	1,932,500	1,572,500
	空デ・建築・基デ・芸文	1,904,500	1,544,500

注) 入学金については、通常の金額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

②科目等履修生・委託学生・教職課程履修費等

(1) 科目等履修生(一般)

登録料	45,000
受講料	
講義	34,500
実技演習	69,000
実習費	3,500
選考料	10,000

注) 受講料・実習費は1単位当りの額。

(2) 科目等履修生(教職課程及び学芸員課程)

本学の卒業生で教員免許取得及び学芸員資格取得を目的とする科目等履修生

登録料	45,000
受講料	
講義	3,450
実技演習	6,900

実習費	3,500
教育実習費	10,000
介護等体験費	14,000
博物館実習費	21,000
選考料	10,000

注)1 受講料・実習費は1単位当りの額。

注)2 本学大学院に在籍している者は登録料を免除する。

(3) 委託学生

登録料	45,000
受講料	
委託学生 A	
講義	34,500
実技演習	69,000
委託学生 B	
1年以内	592,500
6か月以内	296,250
実習費	
委託学生 A	3,500
委託学生 B	実費
選考料	10,000

委託学生 A… 授業科目の受講を目的とする者。

委託学生 B… 受入研究室及び担当教員の指導に基づき、本人の研究テーマについて修学することを目的とし、授業科目の受講を主たる目的としない者。

注)1 委託学生 A の受講料及び実習費は1単位当りの額。

注)2 委託学生 B の実習費は、実習費用が伴う場合、その都度実費を本人が負担する。

(4) 学籍継続者(卒業延期者)

在籍料	65,000
受講料	
講義 (一般)	17,250
講義 (教職・学芸員)	5,500
実技演習	34,500
実習費	3,500

注)1 在籍料の算定は5,000円単位とし、その中間金額を超える場合は切上げを行う。

注)2 在籍料は前期(半期)のみの在籍の場合、半額の32,500円とする。

注)3 受講料・実習費は1単位当りの額。

(5) 教職課程履修費及び学芸員資格取得に係る履修費

教職課程履修費(登録料)	24,500
学芸員履修費(登録料)	21,000

【造形学部 通信教育課程】

(1) 入学金及び授業料

学科名	学 年	入学金	授業料	計
油絵学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000
工芸工業デザイン学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000
芸術文化学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000
デザイン情報学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000

注)1 編入学者に係る入学金は30,000円。

注)2 武蔵野美術大学(別科を含む)、武蔵野美術大学短期大学部(通信教育部を含む)、武蔵野美術短期大学(通信教育部を含む)、武蔵野美術学校、武蔵野美術学園等の卒業生及び中退者は、入学金(編入学金)を免除。武蔵野美術大学造形学部通学課程からの転籍者も入学金を免除。

(2) 面接授業受講料

鷹の台校・吉祥寺校・新宿教室で開催	左記以外の地方会場で開催
<ul style="list-style-type: none"> ・講義科目は1単位につき8,000円 ・講義科目以外の授業科目は1単位につき13,000円 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義科目は1単位につき10,000円 ・講義科目以外の授業科目は1単位につき16,000円

(3) 教職課程履修費

① 教育職員免許法第5条第1項別表第1による場合	114,000
② 教育職員免許法第6条第2項別表第3及び別表第8による場合	57,000
③ 教育職員免許法第6条第3項別表第4による場合	57,000

(4) 学芸員課程履修費

69,000 円

(5) 科目等履修生

① 科目等履修生(一般)

登録料	40,000
受講料 (1 単位当りの額)	
講義科目	12,000
講義科目以外	18,000
考査料	10,000

② 科目等履修生(教職生) 教育職員免許法第 6 条別表第 3 及び別表第 8 による場合

登録料	40,000
受講料 (1 単位当りの額)	
講義科目	8,400
講義科目以外	12,600
考査料	10,000

③ 科目等履修生(教職生) 教育職員免許法第 6 条別表第 4 による場合

登録料	40,000
受講料	319,000
考査料	10,000

④ 科目等履修生(特修生)

登録料	40,000
受講料 (1 単位当りの額)	
講義科目	12,000
講義科目以外	18,000
考査料	10,000

2. 入学金減免について

【大学院 造形研究科 博士後期課程】

減免適用者	入学金
本学造形学部卒業後他大学大学院修士修了見込者	半額
本学造形学部卒業後他大学大学院修士修了者	半額
本学大学院修士修了見込者	徴収しない
本学大学院修士修了者	徴収しない

注)1 本学短期大学卒業者の中には、専攻科修了後学位授与機構において学士の学位を得た者を含む。

注)2 短期大学部及び造形学部には、通信教育課程を含む。

【大学院 造形研究科 修士課程】

減免適用者	入学金
本学造形学部卒業生	半額
本学造形学部卒業見込者	半額
本学大学院修了者	半額
本学大学院修了見込者	半額

【造形学部】

入学区分	減免適用者	入学金
1年次入学	本学短期大学卒業生	半額
	本学造形学部卒業生	半額
	本学造形学部卒業見込者	半額
3年次編入学	本学短期大学卒業生	半額
	本学造形学部卒業生	半額
	本学造形学部卒業見込者	半額
転籍	本学通信教育課程からの転籍者	半額

注) 転科・転専攻は、在学生の本学造形学部内での学籍異動なので、入学金は徴収しない。

8. 当該学校の所在地

鷹の台キャンパス

法人本部、武蔵野美術大学造形学部（通学課程）、大学院
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736

吉祥寺校

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程、武蔵野美術学園
〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7

新宿サテライト（新宿教室）

〒163-0609 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 9階

9. 役員及び教職員に関する情報

①役員に関する情報（2013年3月31日現在）

■法人役員(理事9名、監事2名)	■評議員	24名
理事長	天坊昭彦	
学長・理事	甲田洋二	
理事	稲葉直	
理事	大坪圭輔	
理事	木村修三	
理事	鈴木久雄	
理事	松家克	
理事	宮崎晋	
理事	向山卓二	
監事	小川昭夫	
監事	幸島祥夫	

②教職員に関する情報（2012年5月1日現在）

■教職員数	
専任教員	141名（教授128名、准教授10名、専任講師3名）
武蔵野美術学園教員	3名
客員教授	25名
助手	54名
非常勤講師	680名（大学646名、学園34名）
教務補助員	62名
武蔵野美術学園副手	5名
事務系職員	193名（専任81名、嘱託62名、長期臨時50名）

Ⅱ．事業の概要

1．平成 24 年度重点課題

学校法人武蔵野美術大学は、キャンパス整備計画、資金計画、大学院の充実等の中長期的な計画を前提として、次のとおり五つの重点課題を設定した。

(1) 小平 3・3・3 号線敷設に対応する北側校地グラウンド等移設工事及び A 棟（仮称デザイン工房棟）新築工事の実施

北側校地グラウンド等移設工事を実施、門・守衛室工事等の一部工事を残し終了する。また A 棟（仮称デザイン工房棟）新築工事について平成 26 年度前期竣工に向け、着手する。

(2) 学生支援の充実

平成 22 年度に実施した学生生活実態調査の結果を踏まえ、武蔵野美術大学奨学金制度を一部見直し、受給対象者の大幅な増員を図る。また、東日本大震災による甚大な影響に鑑み、被災された平成 24 年度入学生や現在も家計の回復が見込めず、修学を継続することが困難な在对学生に対し、平成 24 年度特別措置として学費等の減免を実施する。

(3) 外部・競争的研究資金等獲得の促進

科学研究費補助金の拡充、公的機関、助成財団等競争的研究資金、各種助成金等の獲得、産官学委託研究の促進を図る。

(4) 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジの開設

共同研究・受託研究などの教育研究プロジェクトによる企業等との連携促進、先端的デザインの発表の場とするなど、本学デザイン教育研究活動の情報発信推進を図るための拠点として、平成 24 年 4 月、東京ミッドタウン・デザインハブに「武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ」を開設、活動を開始する。

(5) 広報活動の強化

本学の志願者数は、平成 21 年度、22 年度と 2 年連続で 15% 近く減少、平成 23 年度には前年度比 3% 減と大幅な減少傾向に歯止めをかけたものの、平成 24 年度には併願率の低下もあり 10% 減と再び大きく減少した。

志願者の安定的確保と資質の確保に全学をあげて取り組み、オープンキャンパスや進学相談会、ホームページの充実、高校・予備校訪問の拡充などを軸に、更なるパブリシティの展開、海外での進学相談会の実施など、広報活動の強化を図る。

2．重点課題に基づく事業計画とその進捗状況

上記の重点課題に基づく事業計画とその進捗状況は次のとおりである。

(1) 小平3・3・3号線敷設に対応する北側校地グラウンド等移設工事及びA棟 (仮称デザイン工房棟) 新築工事の実施

南北に分断される校地間の学生の安全な移動方法確保について、外的要因によりその見通しが立たない中、土地収用及び移転補償契約の締結が遅れ、標記工事の着手には至らなかった。交渉を重ねた結果、1月中旬地下道敷設許可の見通しが立ったことを受け、平成25年2月開催理事会決定を経て、2月末に東京都代理人である小平市長と土地収用及び移転補償にかかる契約を締結した。また、自己資金による計画実施を踏まえ、北校地整備及び仮称デザイン工房棟建設を第1期工事として平成27年度末までに、講義棟、ギャラリー棟の建設を第2期工事として平成31年度を目途に完成するという日程を進めることを確認した。

(2) 学生支援の充実

学生生活実態調査の結果を踏まえ、武蔵野美術大学奨学金の制度を一部見直し、給付額30万円を160名、授業料半額相当分を40名に支給、受給対象者の大幅増加を図った。また、家賃補助制度を発足し、86名(募集人員100名、103名出願)の学生に月額5千円、年額6万円の補助を実施した。

東日本大震災で被災された平成24年度新入生12名、経済的に修学困難な状態が続いている在学学生9名に対し、学費の減免や延納許可の支援を行った。また、突風や暴風雪等により被災され災害救助法の適用を受けた地域に住む平成25年度新入生及び在学学生に対しても支援措置を従来通り講じた。

(3) 外部・競争的研究資金等獲得の促進

科学研究費補助金について、2012(平成24)年度は新規申請8件、うち採択2件となった。平成25年度の更なる科研費申請・採択にむけて、教授会での説明、スタッフの積極的な研修参加、他大学ヒアリング、本学独自の「科研費獲得の手引き」作成等をおこなった。

なお、本学の2012(平成24)年度国庫補助金は私立大学経常費補助金一般補助・特別補助合計8億117万円で、研究設備整備費等補助金・国際化拠点整備事業費補助金(グローバル人材育成推進事業)を含めると8億8,290万円となった。

(4) 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジの開設

本学デザイン教育研究活動の情報発信拠点として、六本木の東京ミッドタウン・デザインハブ内に2012(平成24)年4月より武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジを開設した。

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジでは、「ムサビのデザイン～武蔵野美術大学デザインコレクションと教育～」などの展示活動を初めとして、公開講座「トップデザインセミナー」などのセミナー・フォーラム、東京工業大学との合同授業、「港区ミッドストリート」など地域・企業との連携活動など様々な活動を実施した。

(5) 広報活動の強化

広報印刷物について、メインとなる「大学案内」を補完する目的で「サブパンフ」を制作、特に高校1、2年の生徒に対する美術・デザインの訴求力強化を図った。また、WEBサイトコンテンツの充実やPR会社との連携によりパブリシティの強化を継続した。6月のオープンキャンパスには5,460名(前年比88名減)、8月進学相談会(東京)には1,072名(前年比47名減)が来場、地方進学相談会は19会場で実施し、ほぼ前年並みの来場者があった。また、180校を超える高校ガイダンスや模擬授業、予備校

での説明会・相談会を実施した。平成 25 年度一般入試の志願者数は、併願率の上昇もあり前年比 1.8% 増となった。

3. その他の事業実績

(1) 平成 24 年度文科省グローバル人材育成推進事業の採択・実施

「武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラム」が芸術系大学としては唯一、文部科学省による平成 24 年度グローバル人材育成推進事業（特色型）に採択された。平成 24 年度は事業推進のための委員会の立ち上げを行い、国際交流プロジェクト件数増加への検討、国際交流プロジェクトの授業の単位化へ向けた学内制度の整備、海外インターンシップ先の開拓等を実施、特設 WEB サイトや iRoom (International Interaction Room) を開設した。

(2) カリキュラムの再編

平成 24 年 4 月に学長より示された新カリキュラム具体案策定のための指針に準拠し、各教育単位との調整を行い、「学科別初年次・専門基礎教育の充実」、「造形総合の理念のさらなる追求」、「文化総合科目の充実」を骨子とした新カリキュラムを取り纏め、平成 25 年度新入生から適用することとなった。なお、平成 27 年度までは、旧カリキュラムとの併存となり、その移行措置を講じた。

(3) 大学院における教育研究の将来構想についての検討

平成 23 年度末の大学院将来構想委員会中間答申を受け、学長より教員組織、新コースなどに関する具体的な答申を提示するよう要請があり、本年 2 月に同委員会より最終答申が提出された。

(4) デザイン領域における教育研究の将来構想についての検討

平成 23 年度末のデザイン領域将来構想委員会中間答申を受けて、学長より本学にふさわしいデザイン教育の将来像について具体的な答申を提示するよう要請があり、本年 2 月に同委員会より最終答申が提出された。

(5) 造形研究センターの継続的発展

平成 20 年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」選定事業である「造形資料に関する統合データベースの開発と資料公開」は、高い評価を得て平成 24 年度をもって終了した。さらに、造形研究センターの継続的発展を考え、これまでの成果を生かし、新たな文部科学省同支援事業に申請した。

(6) 通信教育課程の改革

通信教育課程研究室を中心に授業システムの改善案を検討する中、受講学生の実態を踏まえ、夏期集中スクーリングから週末スクーリングへのシフトなど、新たな対応を実施することとなった。

(7) 美術教育の振興

「旅するムサビ」や美術館での中学生鑑賞プログラムなどにより、初等中等教育現場との関係性を密にするとともに、「美術系大学連絡協議会」では各種情報交換、各大学の認識の共有化を図り、共同して

芸術文化の発展と美術教育の振興を目指した活動を展開すべく覚書を交わすことになった。

(8) 各部の取組

<企画部>

- ① 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジを開設した。
- ② 武蔵野美術大学校友会との共催にて、7月に地域フォーラムアート&デザイン 2012 東北「ワタシニデキルコト」を開催した。
- ③ 平成 24 年度自校史教育検討ワーキングチーム主催企画展「自校史を知ろう！『創立記念祭から芸術祭へ』 写真で見る昔の芸祭」（2012 年 10 月 27 日～29 日、於：田中誠治記念室）、「第 2 回自校史を知ろう！『ムサビを支えた人々』 帝国美術学校の創立期から同盟休校と 帝国美術学校の分裂まで」（2013 年 3 月 19 日、於：田中誠治記念室）の開催協力を行った。
- ④ 小平市と小平市内 6 大学（嘉悦大学、白梅学園大学・短期大学、津田塾大学、一橋大学、文化学園大学、武蔵野美術大学）が地域活性化と人材育成での相互連携を目的として発足した「小平市大学連携協議会」に参画した。
- ⑤ 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジにて武蔵野美術大学公開講座「トップデザインセミナー」を開催した（全 8 回）。
- ⑥ αM プロジェクトについて、千代田区東神田の gallery αM において「絵画、それを愛と呼ぶことにしよう」を年間 9 回の企画展として開催した。文化庁「平成 24 年度時代の文化を創造する新進芸術家育成事業」に申請・採択され、委託事業の指定を受けた。
- ⑦ 産官学受託研究 10 件を実施した（1,001 万円）。
- ⑧ 11 月東京ビッグサイトで開かれた「GOOD DESIGN EXHIBITION 2012」に出展した。

<総務部>

- ① メンタルヘルスケア及び外部労務コンサルタントを起用し、様々な問題に対する諸規則の整備を行った。
- ② 会計システム TOMAS-PS/EX のサポート終了に伴い、最新版会計システム（TOMAS-PS/EX 2）へ移行し、業務の効率化をはかった。
- ③ 7 号館トイレの改修工事を実施した。
- ④ 10 号館修繕工事（外壁・床補修、屋上防水等）を実施した。
- ⑤ エコキャンパス対応として、7・9・12 号館の廊下、会議室等の照明を LED に変更した。
- ⑥ 都道 333 号線による校地分断対応として、北側校地整備にかかる土地を購入した。
- ⑦ 資産管理を徹底するために備品管理システムを導入した。

<教務部>

- ① グローバル人材育成推進事業に係る取組として、インタラクティブ交流ルームを整備した。
- ② 第 36 回東京五美術大学連合卒業・修了制作展を国立新美術館にて開催し、幹事校を務めた。
- ③ 大学院 FD 活動の一環として、初めて大学院をテーマに全学研修「ムサビ大学院の過去・現在・未来—これからの大学院教育の足がかりとして—」を行った。
- ④ 前期研究集会（テーマ「竹素材による構造研究、授業風景を通して」）、後期研究集会（テーマ「彫刻家マルセル・ジモンの研究」）を開催した。

- ⑤ ホームページの大学概要の中に研究活動の項目を新たに設け、教員の研究活動として、研究紀要、共同研究の内容を公開した。
- ⑥ 自校史教育を検討するためのワーキングチームを教務学生生活委員会内に設置した（平成 26 年度末まで）。入学式・卒業式、芸術祭に田中誠治記念室において写真パネル・解説文の展示を行った。
- ⑦ 共用演習室におけるデザイン演習イス 700 脚の取替更新、3 年計画の 2 年目を実施した。
- ⑧ 大人数を収用できる講義室 8 教室について、デジタル化に対応するべく設備の改修工事を行った。
- ⑨ 防災対策として、全講義室のプロジェクターやモニター等、天井から吊り下げている機器について、強度検査を行った。
- ⑩ 平成 25 年度からの新カリキュラムに対応するべく、教務事務システムの大幅改修を行った。

<学生部>

- ① 武蔵野美術大学奨学金の贈与額及び「大奨 A」の採用基準について見直しを図り、学科均等に採用する事を実現した。
- ② 聴覚障害をもつ学生に対するノートテイク支援のために、5 月に課外講座「ノートテイク養成講座」を実施し、有償ボランティア学生を募集した。
- ③ 鷹の台ホール B 棟の水回り改修および鷹の台ホール C 棟の補修工事を実施し、キャンパス・アメニティの充実を図った。
- ④ 3 年次 5 月のスタートアップガイダンスから 9 月の学科別ガイダンスに至るまで従来 3 回のガイダンスを実施していたが、就職活動の長期化に対応し 4 年次ガイダンスを 3 回増設、卒業期までに合計 6 回のガイダンスを実施した。
- ⑤ ハンディータイプで持ち運べる「就職ガイドブック」等の冊子を学部 3 年生、修士 1 年生らに配布した。
- ⑥ 年 2 回、ポートフォリオ説明会や内定者の作品などを紹介する進路インフォメーション誌を発行し、就職活動の一助とした。
- ⑦ 自己分析講座、グループディスカッション講座、就職支援サイトセミナー等の各種就職セミナー等を開催した。
- ⑧ 年間 100 社を超える学内会社説明会を実施、入試時期は新宿サテライトキャンパスを効果的に活用した。また 12 号館 8 階での合同会社説明会を秋以降、卒業を控えた未内定者向けに増やし、さらに学部 3 年生向けも実施した。
- ⑨ 正課キャリア教育への対応として、キャリア教育基礎を前期と後期に開講。進路指導専門委員会により適切なキャリアに関する基礎教育を実施した。
- ⑩ 就職開拓ツールとして冊子「武蔵人（むさびと）」を発行した。求人票送付の際に同封し本学への理解を深めた。また求人票は年 4 回送付を実施した。
- ⑪ キャリア支援の一環として、鷹の台キャンパスおよび新宿サテライトキャンパスを利用してマナー講座等セミナー型講座の充実を図った。
- ⑫ 海外インターンシップの開拓（グローバル人材育成推進事業）の一環として、日本広告制作協会を通じ、タイ・バンコクの広告代理店 SPIN WORK 社の紹介を受け現地で交渉を行い次年度の実施を決定した。

<通信教育課程>

- ① 前年度2都市で開催した地方単独入学相談会を拡充し、4都市（千葉・大宮・静岡・松本）で開催した。
- ② 本学単独入学相談会開催日に併せて、新たに教員による特別講演会及び体験授業を実施した。
- ③ コース別リーフレットを新規作成した（スペースデザインコース）。
- ④ 月刊誌『武蔵美通信』をA4判にリニューアル発行した。
- ⑤ 『通信教育課程災害時対応マニュアル2012』を作成した。
- ⑥ 平成25年度から使用する教科書2冊『新しい生活指導・進路指導』『教育通義』を刊行した。
- ⑦ 臨床心理士による学生相談室を夏期スクーリング期間中に新たに開設した。また、入学前面談に臨床心理士が同席することとした。
- ⑧ 平成25年度からの科目試験東京会場の変更、吉祥寺校における夏期スクーリングの開講など、学生の利便性向上のための変更について決定した。
- ⑨ 新入生ガイダンス実施日に併せて、新たに教員による相談会を実施した。
- ⑩ 学生向け『著作権ガイドブック』を作成した。
- ⑪ 科目等履修生の身分証明書について、前年度に変更した学生証と同様、図書館利用機能と一体化したプラスチックカードに変更した。

<美術館・図書館>

- ① 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の完成年度を迎え、造形研究センター研究プロジェクトを推進すると共に研究活動と連動した事業を行った。
 - ・「美術資料」「図書資料」「民俗造形資料」「映像資料」の全4分野を統合した検索システム「統合データベース」の設計開発と実験稼働を行った。
 - ・美術作品管理検索システム「ミュージアムテーク」・図書資料管理検索システム「アイリスウェブ」を連携した「横断検索システム：M&Lシステム」の検索精度の向上を行った。
 - ・図書館貴重書および準貴重書の画像データベース化を行った。
 - ・中村とうようコレクションSPレコードのデジタル変換事業を進めた。
 - ・荒俣氏旧蔵博物図譜資料を全ページ閲覧できるアプリをリリースした。
- ② ICT機器（ブックタッチ）の機能拡充を行った。
- ③ 3月開館を実施した。
- ④ 展覧会関連事業（年間17本の企画展）を行い、年間約6万5千人の入館者があった。
- ⑤ スタディールームとしても機能できる版画作品庫の整備を行った。
- ⑥ 本学卒業制作優秀作品受賞作品データベースの設計開発に着手した。

<国際センター>

- ① 海外からの訪問教授や研究員の招聘、パリ賞、海外協定校との交流、学生交換、海外教育情報の調査・提供、留学相談、海外広報等の推進を実施した。
- ② 海外大学等との共同プロジェクトや教員交流、相互ワークショップ等を実施した。
- ③ 80周年記念事業の海外留学研究奨励奨学金募集を実施した。
- ④ ポール・スミス奨学金奨学生の選出と送り出しを実施した。
- ⑤ グローバル人材育成推進事業へのプログラム申請をし、採択された。

- ⑥ 私費留学生への学生生活の効果的支援及び奨学金（授業料減免を含む）業務を実施した。
*2012（平成24）年5月現在、私費国費留学生総数201名。
- ⑦ 日本語教育に対するサポートを行った。

<広報入学センター>

- ① ケーブルテレビJ：COMによるテレビ番組を制作・放映した。
- ② 「入学試験ガイド」と「入学試験問題集」を合本し、無料配付とした。
- ③ 高校内ガイダンス等の実施報告書を定型化し入力を簡素化するとともに情報の蓄積化を図った。
- ④ 入学試験合格者（公募制推薦、特別、一般）に対するアンケートを実施した。
- ⑤ 国内日本語学校（メロス言語学院）との連携を強化し、説明会回数を増加した。
- ⑥ 入試過去問題を Web により公開した。
- ⑦ 一般方式・センター方式・公募制推薦入試の募集人員の見直しを行った。
- ⑧ 一般入試建築学科専門試験から「立体構成」を廃止した。
- ⑨ 一般入試空間演出デザイン学科専門試験「デザイン」の内容を立体構成から平面構成に変更した。
- ⑩ 大学院修士課程入試において、工芸工業デザインコースで B 日程を、デザイン情報学コースで社会人を対象とした入試を導入した。

<武蔵野美術学園>

- ① 学生募集活動に注力し、週2日制を含む在籍者数を、平成23年10月次在学数178名から平成24年10月次同205名に増やした。
- ② オープンセミナー開講数を前年度より21講座増の計112講座開講した。
- ③ The SIZE SIX 展を開催し、出品料とオークション売上の合計50万円を、武蔵野市を通じて東日本大震災義援金として寄付した。出品作品は、学園生のみならず一般市民を含め194点となった。
- ④ 東京都公園局を中心にした井の頭100祭実行委員会の要請により「井の頭100祭」に協力し、同祭の装飾及びイベント「公園を描こうスケッチ大会」の運営・審査を担当した。
- ⑤ オープンキャンパスと学園祭を同時に開催した。
- ⑥ 子ども講座を拡充し、「春の子ども教室」「夏休み子ども教室」に加え、新たに「秋の子ども教室」を開講した。
- ⑦ 武蔵野市主催「むさしの環境フェスタ」の展示等に協力した。
- ⑧ 武蔵野市の依頼により、吉祥寺東町公園予定地の落書きされていた壁面に壁画を描くプロジェクトを実施した。
- ⑨ メディア表現科の学外展示「MAS+展」を吉祥寺地区の5つのギャラリーで同時開催した。
- ⑩ メディア表現科各コースの体験授業を実施した。
- ⑪ 学園校友会とのより一層の連携促進のため、学園校友会事務室の改装を実施した。
- ⑫ 学習環境のより最適化のため彫刻室の改修及び研究室の一元化を実施した。

以 上

Ⅲ. 財務の概要

1. 経年比較

(1) 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	本年度末
固定資産	36,733,419	37,412,544	38,433,910	38,541,360	41,406,404
流動資産	7,685,281	8,448,162	7,760,294	8,626,048	8,264,359
資産の部合計	44,418,700	45,860,706	46,194,204	47,167,408	49,670,764
固定負債	1,783,072	1,792,368	1,781,796	1,746,767	1,633,797
流動負債	2,520,857	2,608,621	2,595,585	2,781,217	4,170,952
負債の部合計	4,303,929	4,400,989	4,377,381	4,527,984	5,804,749
基本金の部合計	39,521,903	40,353,424	41,330,381	41,767,439	41,476,693
消費収支差額の部合計	592,868	1,106,293	486,442	871,985	2,389,322
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	44,418,700	45,860,706	46,194,204	47,167,408	49,670,764

(2) 収支計算書

① 資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	本年度末	
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,416,395	8,415,562	8,421,425	8,355,437	8,312,633
	手数料収入	302,336	262,129	252,414	228,356	216,170
	寄付金収入	97,513	100,758	82,173	52,510	78,822
	補助金収入	839,342	1,196,086	889,305	977,115	883,281
	資産運用収入	131,423	64,548	42,110	24,613	33,781
	資産売却収入	9,419	0	0	0	824,339
	事業収入	37,952	34,417	47,003	90,806	80,161
	雑収入	330,493	275,706	157,519	231,131	233,674
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	1,951,545	1,975,520	1,994,292	1,956,262	3,093,498
	その他の収入	1,549,124	1,552,561	793,856	547,320	470,980
	資金収入調整勘定	△ 2,250,954	△ 2,631,636	△ 2,267,232	△ 2,199,070	△ 2,238,575
	前年度繰越支払資金	8,152,840	7,101,911	7,470,978	7,194,759	8,150,509
	収入の部合計	19,567,428	18,347,562	17,883,843	17,459,241	20,139,274
支出の部	人件費支出	4,982,941	4,902,031	4,728,373	4,773,935	4,790,932
	教育研究経費支出	2,874,247	2,348,922	2,868,412	2,418,269	2,654,430
	管理経費支出	808,546	876,966	872,086	815,950	831,170
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	2,649,264	1,773,489	1,580,638	566,874	319,983
	設備関係支出	214,529	693,302	552,167	284,088	248,904
	資産運用支出	997,123	324,296	73,104	651,786	3,791,729
	その他の支出	557,232	522,203	562,470	557,773	750,318
	資金支出調整勘定	△ 618,365	△ 564,625	△ 548,166	△ 759,944	△ 989,280
	次年度繰越支払資金	7,101,911	7,470,978	7,194,759	8,150,509	7,741,087
	支出の部合計	19,567,428	18,347,562	17,883,843	17,459,241	20,139,274

②消費収支計算書

(単位:千円)

科 目		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	本年度
消費収入の部	学生生徒等納付金	8,416,395	8,415,562	8,421,425	8,355,437	8,312,633
	手数料	302,336	262,129	252,414	228,356	216,170
	寄付金	103,729	125,156	84,469	55,003	86,143
	補助金	839,342	1,196,086	889,305	977,115	883,281
	資産運用収入	131,423	64,548	42,110	24,613	33,781
	資産売却差額	0	0	0	0	722,694
	事業収入	37,952	34,417	47,003	90,806	80,161
	雑収入	330,493	275,706	157,519	231,131	233,674
	帰属収入合計	10,161,670	10,373,604	9,894,245	9,962,462	10,568,537
	基本金組入額合計	△ 1,826,403	△ 831,522	△ 976,957	△ 437,058	△ 111,533
	消費収入の部合計	8,335,267	9,542,082	8,917,288	9,525,404	10,457,004
	消費支出の部	人件費	4,960,542	4,880,694	4,699,560	4,769,541
教育研究経費		3,701,820	3,171,973	3,832,588	3,434,524	3,706,650
管理経費		907,416	972,525	978,023	929,642	948,417
借入金等利息		0	0	0	0	0
資産処分差額		79,406	3,465	26,968	6,154	211
徴収不能引当金繰入額		0	0	0	0	0
消費支出の部合計		9,649,184	9,028,657	9,537,139	9,139,861	9,341,946
当年度消費収支超過額	△ 1,313,917	513,425	△ 619,851	385,543	1,115,058	
前年度繰越消費収支超過額	1,906,785	592,868	1,106,293	486,442	871,985	
基本金取崩額	0	0	0	0	402,279	
翌年度繰越消費収支超過額	592,868	1,106,293	486,442	871,985	2,389,322	

2. 主な財務比率比較

消費収支計算書及び貸借対照表から、本学の過去5年間の財務比率を計算し下表に示した。なお、「評価」欄は日本私立学校振興・共済事業団による評価を、「芸術系学部平均」欄は芸術系21法人の平成23年度の平均値を表したものである。(いずれも日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成24年度版による)

消費収支計算書関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	本年度	(単位:%)
								芸術系 学部平均
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↗	5.0	13.0	3.6	8.3	11.6	△ 1.0
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	82.8	81.1	85.1	83.9	78.7	78.1
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↗	1.0	1.2	0.9	0.6	0.8	0.9
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↗	8.3	11.5	9.0	9.8	8.4	10.7
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↘	48.8	47.0	47.5	47.9	44.3	57.0
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↗	36.4	30.6	38.7	34.5	35.1	30.6
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↘	8.9	9.4	9.9	9.3	9.0	10.1
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	↘	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	↗	18.0	8.0	9.9	4.4	1.1	9.9
減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	—	9.7	10.2	11.0	12.5	12.3	12.2
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	↘	58.9	58.0	55.8	57.1	56.4	73.0
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	↘	115.8	94.6	107.0	96.0	89.3	112.1

貸借対照表関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	本年度	(単位:%)
								芸術系 学部平均
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	↗	90.3	90.4	90.5	90.4	88.3	90.4
消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	↗	1.3	2.4	1.1	1.8	4.8	△ 5.8
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↘	91.6	90.2	91.9	90.4	94.4	97.4
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	↘	87.7	86.5	88.2	86.8	91.0	92.4
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	82.7	81.6	83.2	81.7	83.4	88.0
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	54.1	56.6	58.4	56.6	52.4	57.4
その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産}}{\text{総資産}}$	↗	28.6	25.0	24.8	25.1	31.0	30.6
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	↗	17.3	18.4	16.8	18.3	16.6	12.0
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↗	304.9	323.9	299.0	310.2	198.1	254.3
退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	↗	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	66.3
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	↘	4.0	3.9	3.9	3.7	3.3	4.9
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	↘	5.7	5.7	5.6	5.9	8.4	4.7
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↘	9.7	9.6	9.5	9.6	11.7	9.6
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↘	10.7	10.6	10.5	10.6	13.2	10.6

(※) [評価] ↗ : 高い値が良い ↘ : 低い値が良い
 総資金 = 負債 + 基本金 + 消費収支差額 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額